

先進地視察 大里松原海岸

(海陽町) 令和6年
10月19日(土)

大里松原海岸は、日本の白砂青松100選に選ばれた全町4kmにも及ぶ海岸。令和元年の台風19号の被害を受け、12,000本あったクロマツのうち、4,000本が枯れた。そのうえ毎年のマツノザイセンチュウの被害でクロマツの数が減少し、約7,000本になった。大里部落では、松の植樹、育林作業を継続しつつ、地域の中学校への出前授業を行うなど、次世代への継承等にも取り組んでいた。いまでも松露の出る場所があるとのこと。



大里部落の斎藤氏には丁寧にお話をいただいた。



台風で海水が浸水して松が全滅した場所に、植樹、育林作業を行っている。



中林海岸 マツ林勉強会を 開催

令和6年12月15日(日)

講師：

霜村 典宏氏(鳥取大学農学部教授)

岡 浩平氏(広島工業大学環境学部地球環境学科准教授)

山中 亮一氏(徳島大学理工学部社会基盤デザインコース准教授)

参加者数 25名

勉強会では、松露の専門家、海岸植生の専門家、環境工学の専門家からお話を伺い、中林海岸マツ林を今後どう守っていくかについて考える機会となった。

松露再生第1歩 中林海岸松林で松露を復活させられるか!?

令和7年1月11日、松露の会有志により松林の一部にて、草の生えた土の層を取り除く作業を行った。

松露は砂地でないと発生しない。また、若いクロマツで発生しやすい。苗木が植えられており、日当たりのよい場所を選定し、草の生えた土の層を20cmくらい取り除くと、砂地が出てきた。今後、徐々に範囲を広げ、どのように変化していくか観察する。



いざ、このあたり。斜面でボカボカとしたい場所。



土の層は厚く、掘り上げて運ぶ作業はかなりしんどい



松苗の周りがぐるっと一周、キレイに砂地になりました。

ナカバヤシ ショウロ タイムズ Nakabayashi Syouro Times

Vol.1

令和7年2月 中林松露を復活させよう会発行

令和6年度取組内容

1.クロマツ毎木調査報告 2.ハルゼミの分布調査報告 3.大里海岸松林視察 4.中林海岸マツ林勉強会開催 5.松露再生第1歩

中林の美しい海岸 暮らしを守る松林

中林海岸松林を保全し
松露(ショウロ)を復活させる
取組の今をご紹介します



中林松露を復活させよう会とは

中林松露を復活させよう会とは、中林海岸の松林の林床を砂地に戻し、クロマツにしか生育しない松露(ショウロ)というキノコを復活させて、松林やふると中林を元気にしようという団体です。令和5年より活動を開始し、令和6年度は先進地視察や勉強会、林床の下草取りを行いました。中林在住の方ならどなたでも参加できますので、興味があればお声がけください。

中林松露を復活させよう会 会長 大角 徹太郎



令和5年4月話し合いの様子



大田研究室 investigation 調査報告

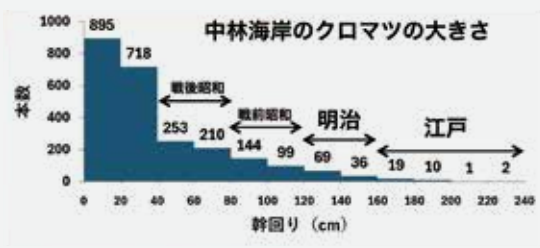
阿南高専大田研究室では、中林海岸松林の現状把握のための調査を行いました。

2024年12月、中林海岸のクロマツを全て数え、幹回りと位置情報を記録した。

1. クロマツの毎木調査



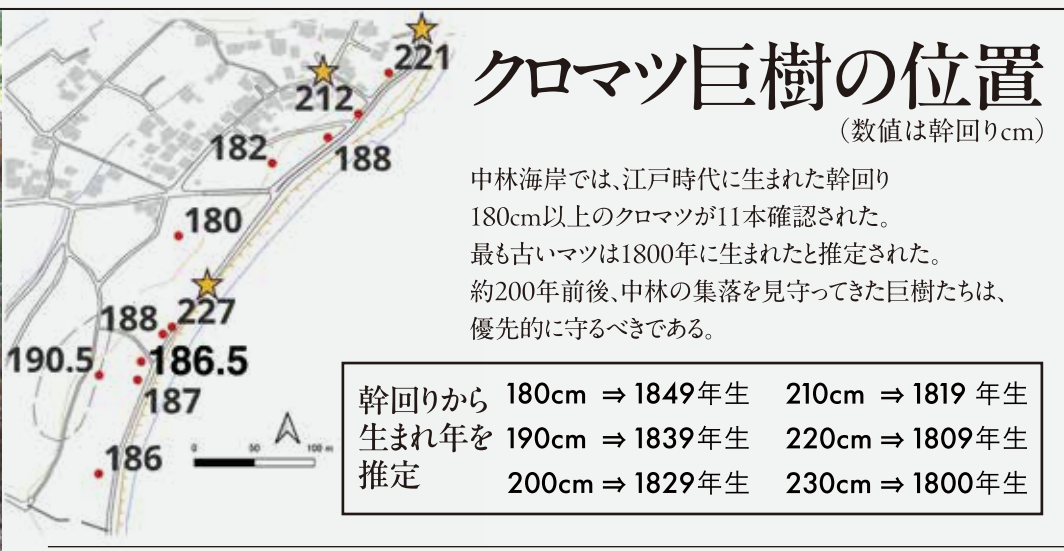
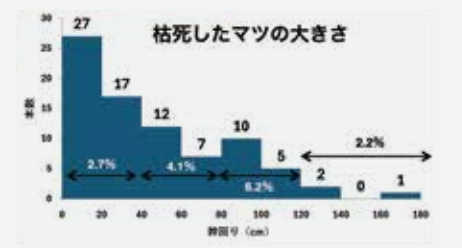
□2537本のクロマツが確認された。
□最も大きいものが幹回り227cmで1800年生まれと推定された。
□幹回り40cm以上の個体については、32本(1.3%)が江戸生まれ、105本(4.1%)が明治生まれ、243本(9.6%)が戦前昭和生まれ、463本(18.2%)が戦後昭和生まれと推定された。



2. 枯死したクロマツの調査



□81本(3.2%)のマツが枯れていた。
□意外にも、明治以前に生まれたマツ(幹回り120cm以上)の枯死率が最も低かった(2.2%)。長寿のマツほど抵抗性が高いのかも知れない。
□一方、明治から戦前昭和生まれのマツの枯死率が最も高く(6.2%)、次いで戦後昭和世代の枯死率が高かった(4.1%)。



ハルゼミの分布調査

ハルゼミは、松林にだけ生息する小型のセミで、中林では4月中旬から5月中旬にかけて成虫が羽化する。晩春や初夏を表す季語「松蟬」(まつぜみ)はハルゼミを指す。日本ではマツノザイセンチュウによる松林の減少、センチュウ駆除のための農薬散布等により、ハルゼミの個体数は各地で減少している。徳島県絶滅危惧IA類に指定されている。

中林海岸でのハルゼミの分布

濃い赤ほどハルゼミが多く観察された場所をしめす→

□ハルゼミの鳴く時期と場所は？
2024年4月15日から晴れた昼間(11~14時)に中林海岸の自転車道路沿いを歩き、ハルゼミが鳴いている場所をGPSで記録した。
ハルゼミは4/17から鳴き始め、4/28に最も多く(32個体/1時間)観察された。GWの間も多く観察され、その後、5/14の7個体を最後に2024年の活動は終了した。
ハルゼミは、松林全体に分布しているわけではなく、特定の場所で多く観察された。ハルゼミが集中していたのは墓地の東側で、墓地から海に抜ける道と自転車道が交差する地点で最も多く確認された。また、北側の東屋の周辺でも鳴いている個体が観察されたが、民家に近い場所ではほとんど観察されなかった。

□ハルゼミの鳴く時間帯は？
5/3、4、5、14の4日間、日の出から日の入りまでの14時間の間、松林にボイスレコーダーを設置してハルゼミの鳴き声を記録した。
日の出後1時間と日の入り前1時間をのぞき、1日中ハルゼミの鳴き声は記録された。よく鳴いた時間帯は10時台(12%)、11時台(17%)、12時台(12%)、13時台(15%)であり、正午前後の2時間で鳴いた時間の56%を占めていた。

